

貴志南っ子

2月

平成30年2月1日

ちはやぶる…

◇今、児童玄関のモニターには「百人一首クイズ」を映し出しています。映し出される短歌のキーワードを並べると、ある文章になるというものです。



◇百人一首は、ご存じ、お正月遊びの定番のひとつ。毎年年始には百人一首の競技がテレビで放送されたりします。漫画「ちはやぶる」で知っているという子もいます。

◇私自身は、子どもの頃、父が買ってきた百人一首セットが家にあり、兄弟3人で競ったものでした。私が読む節回しはたぶん、親の読み方がうつつたものでしょう。覚えようとしなくても遊びの中で自然と覚えて、なんとなくお気に入りの作品は、空で言えたりしました。高校生のとき、古典の冬休みの宿題で50首覚えるというのがありましたが、このときはさすがに親に感謝しました。

◇教師になって、教育雑誌で「五色百人一首」というのを知りました。なるほど、20首なら時間がかからずに勝負できます。当時でも1セット1000円弱もして、グループごとに与えるとかなりな金額になるため、5色の画用紙で手作りの取札セットを10ほど作り、読み札は自分が子どものころから使っていたものを家から持ってきて、学級の子どもたちに与えました。慣れてくると低学年の学級でも5分で1勝負が終わります。そのうちに子どもたちが自主的に「百人一首会社」なるものを作って他学級、他学年にも流行らせて、交流試合をするようになりました。高学年を担当していた時は隣の学校とも学級対抗戦をしたことがありまして、参観日に大人vs子ども大会をしたこともありました。



◇百人一首は、その教育雑誌によると「語彙力」「歴史力」「感受性」「コミュニケーション力」をつけるのに最適とありました。私は、自分が子どものころに楽しかった思いを伝えたくて始めただけでした。それでも将来学習で出てくる人物の作品のときには「紫式部、めぐり逢ひて…」とあえて読んだりしていましたが…。短歌ですから、美しい音韻を感じたり、古語の言葉が持つ美しさを感じたり、何より知的興奮が一番の魅力なのだろうと思います。

◇この貴志南小学校でも、子どもセンターが購入した教材会社製の「五色百人一首」セットが20ほどあり、休憩時間に校長室で楽しむ子がいます。学級によっては、教室の朝の会やお楽しみ会で取り組んでいるところもあるようです。

◇「県の五色百人一首大会で優勝した」という報告を昨年に続いて聞きました。家の人に連れて行ってもらったそうです。和歌浦の天満宮で行われる本格的な大会に出場してきたという子もいました。

◇先月、1年生のために地域の方(貴志中校区)が指導者10人ほど集めて、昔遊びを教えに来てくれました。1月28日のわかやま新報に掲載され、その見出しが「お手玉もこまも楽しいね」でした。お手玉もこまも手先を使い、脳を刺激します。ゲーム脳やらスマホ依存症が憂慮される昨今、かつての遊びの良さ、教育面から見た効果など改めて考えてみたいものです。 <学校長>

★貴志南小学校ではホームページを設けています。 <http://www9.wakayama-wky.ed.jp/kishiminami/>
※写真等は児童個人を特定できないように配慮しています。